小矢部市埋蔵文化財調査報告書第73冊

富山県小矢部市

平成24年度小矢部市埋蔵文化財発掘調査概報

２０１３年３月

小矢部市教育委員会

例　　言

1．本書は、2012（平成24）年度に富山県小矢部市教育委員会が、国庫補助事業として実施した市内遺跡発掘調査等事業の概要報告書である。

2．調査は、小矢部市教育委員会が実施した。ただし、金屋本江遺跡（２）は株式会社上智に、同遺跡（３）は有限会社毛野考古学研究所に業務支援を委託した。担当は次のとおりである

調査事務：大野淳也（生涯学習文化課主任）

現地調査　大野淳也：金屋本江遺跡（１）、桜町遺跡（１）、日の宮・道林寺遺跡

大野淳也・中井真夕（生涯学習文化課主任）：蟹谷条里遺跡、桜町遺跡（２）

藤田慎一（株式会社上智）：金屋本江遺跡（２）

常深　尚（㈲毛野考古学研究所富山支店）：金屋本江遺跡（３）

3．現地調査の作業員は、（公社）富山県シルバー人材センター連合会から派遣を受けた。

4．本書の編集・執筆は基本的に大野が担当したが、金屋本江遺跡（２）については藤田氏に、同遺跡（３）については常深氏に執筆を依頼した。

5．土層の色調については『新版　標準土色帳』（小山正忠・竹原秀雄編著、1967）に準じている。

6．出土遺物及び記録資料は、小矢部市教育委員会が一括して保管している。

目　　次

事業の概要……1
市内遺跡発掘調査等事業一覧……2
市内遺跡発掘調査等事業位置図……3
金屋本江遺跡（１）……4
金屋本江遺跡（２）……6
金屋本江遺跡（３）……8
桜町遺跡（１）・（２）……11
日の宮・道林遺跡……15
蟹谷条里遺跡……16
報告書抄録

事　業　の　概　要

平成24年度の概要

2012（H24）年度に小矢部市内において実施した埋蔵文化財の発掘調査等は12件である。いずれも市内遺跡発掘調査等事業として国庫補助を受け、試掘調査を10件と分布調査を２件行った。そのほか、工事立会２件に対応した。さらに開発行為の事前協議、民間・個人による小規模開発、農地転用・農業振興地域除外申請に伴う問い合わせ等が60件以上あった。

調査の原因は開発行為別にみると、個人の住宅建設、携帯電話基地局設置、宅地造成、店舗建設、土砂採取、公共事業に伴うものなどがある。事業の原因者は、個人２件、民間事業所８件、公共団体２件である。特に今年度は民間事業所による土砂採取を原因とするものが多く、４件の試掘調査を実施した。

以下、調査種類別に各々の調査について概要を報告する。試掘調査の結果については本書次項で報告する。

分布調査

分布調査は、小矢部市の東部に位置する水島地区と、市街地北方にある桜町遺跡の隣接地で実施した。水島地区の調査は現在計画されている農地防災事業に先立つもので、周知の埋蔵文化財包蔵地にはなっていない場所であったが、事業面積が16,000㎡と広大であるために事前に確認した。４月の耕作前に踏査を実施したが、遺物は確認されなかった。桜町遺跡の隣接地の調査は、現在計画されている東部産業団地造成に先立つもので、事業面積は112,000㎡である。現況は大部分が水田で、秋の稲刈り後の11月に踏査を実施したが、遺物は確認されなかった。

近年、市内において大規模な開発行為の計画が増えてきているが、周知の埋蔵文化財包蔵地の範囲外であっても新たな遺跡が発見される例があるため、機会を得て踏査等を実施し、注意して対応する必要がある。

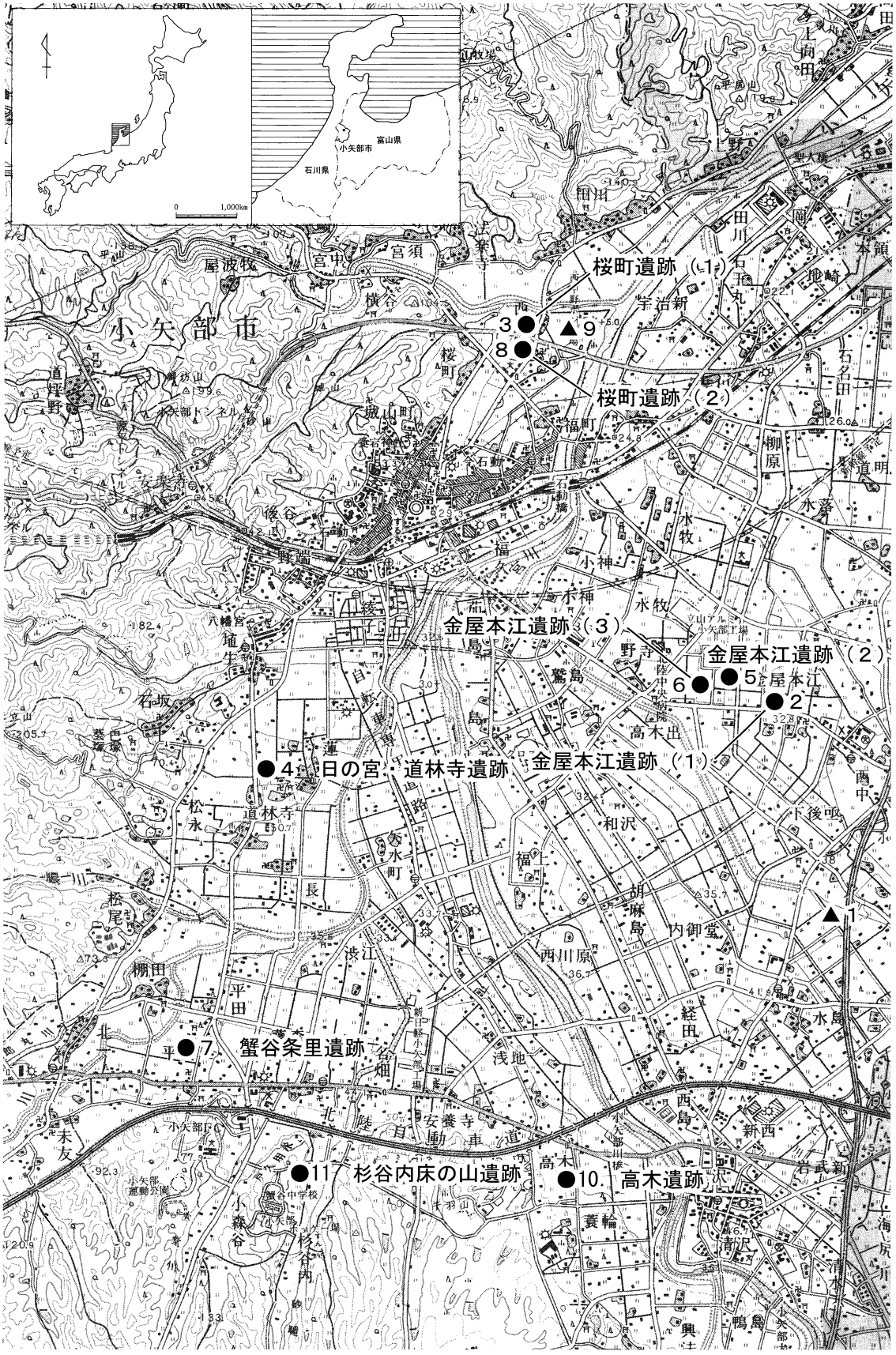
工事立会

工事立会は、小矢部市の北東部に位置する田川条里遺跡（田川遺跡と田川三角山西遺跡の範囲も含む）で行われた土地改良総合整備事業の工事、および小矢部市西部の石川県境付近の倶利伽羅峠一帯に位置する倶利伽羅古戦場で行われた展望台新築工事に伴い実施した。田川条里遺跡内で行われた工事内容は農道下に埋設された既存管水路の改修であり、既に撹乱を受けた部分の再掘削が主で、遺物等は確認されなかった。倶利伽羅古戦場での展望台新築工事では、急峻な崖面に張り出すように設置される展望台の基礎部分の掘削に立ち会ったが、表土直下に地山が確認され、遺物等は確認されなかった。

市内遺跡発掘調査等事業一覧

No.	遺　跡　名	所　在　地	調査対象面積 (掘削面積)	調査種別	現地調査等 期　　間	調　査　結　果	調査原因
1	— (大規模開発予定地)	水島地内	16,000 ㎡	分布調査	24.4.10	遺物確認されず。	農地防災事業
2	金屋本江遺跡（1）	金屋本江 273 外	6,008.43 ㎡ (195 ㎡)	試掘調査	24.4.18 ～ 24.4.19	穴（時期不明）検出。 珠洲、中世土師器、近世磁器出土。	土砂採取
3	桜町遺跡（1）	西中野 字坂東 834 番 1 外	2,055 ㎡ (144 ㎡)	試掘調査	24.4.25 ～ 24.5.3	柱穴、土坑（時期不明）、溝（近世）検出。 土師器、須恵器、近世陶器出土。	店舗建築
4	日の宮・道林寺遺跡	石坂 297 番 2	499 ㎡ (20.8 ㎡)	試掘調査	24.9.5	自然流露検出。 須恵器出土。	個人住宅建設
5	金屋本江遺跡（2）	金屋本江 578 番 1 外	8,911 ㎡ (420 ㎡)	試掘調査	24.10.15 ～ 24.10.29	溝（時期不明）検出。 土師器、須恵器、中世土師器、青磁、珠洲焼出土。	土砂採取
6	金屋本江遺跡（3）	金屋本江 638-1 外	8,604 ㎡ (330.75 ㎡)	試掘調査	24.10.15 ～ 24.10.25	土坑、溝（時期不明）検出。 土師器、須恵器、珠洲焼、近世陶器出土。	土砂採取
7	蟹谷条里遺跡	平桜 6151 番	2,826 ㎡ (120 ㎡)	試掘調査	24.10.30 ～ 24.10.31	遺構確認されず。 珠洲焼出土。	土砂採取
8	桜町遺跡（2）	西中野 字坂東 611-1 外	2,485.9 ㎡ (104.07 ㎡)	試掘調査	24.11.20 ～ 24.11.22	柱穴、土坑)、溝（時期不明）検出。 土師器、須恵器、近世陶器出土。	店舗建設
9	— (桜町遺跡隣接地)	西中野、田川、宇治新、芹川、西福町地内	112,000 ㎡	分布調査	24.11.28	遺物確認されず。	産業団地造成
10	高木遺跡	高木 142-1	374 ㎡ (16 ㎡)	試掘調査	25.3.6	遺構確認されず。 遺物出土せず。	個人住宅建設
11	杉谷内床の山遺跡	杉谷内 字大島 644-1	56 ㎡ (13 ㎡)	試掘調査	25.3.7	遺構確認されず。 遺物出土せず。	携帯電話 基地局建設
12	石動条里遺跡	畠中町 889 番外	2,966.28 ㎡ (100 ㎡)	試掘調査	25.3.13 ～ 25.3.14	遺構確認されず。 近世陶器出土。	分譲宅地造成

市内遺跡発掘調査等事業位置図



金屋本江遺跡（1）

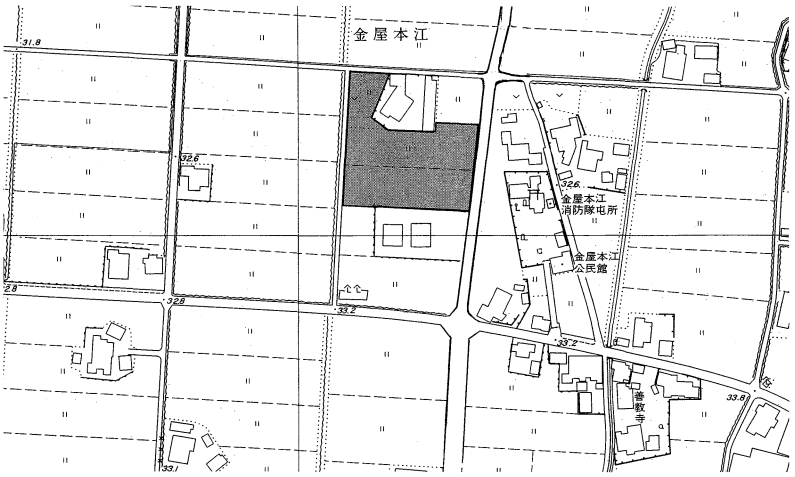


図１　調査位置図
（1：5,000）

１．調査の概要

金屋本江遺跡は市街地の南東に位置する。今回の調査は土砂採取に先立つもので、遺跡範囲の南東部にあたる。現状は水田である。

現地調査は 2012 年（H24）年４月 18 日から４月 19 日の２日間で実施した。調査対象地内に 1.3ｍ×15ｍの試掘トレンチを 10 本設定した。重機械により掘削し、平面及び断面を人力により精査した。最終的な掘削深度は最大 90㎝ 前後となった。基本層位は１層：黄灰色シルト（耕作土）、２層：暗灰黄色シルト、３層：黄褐色シルト、４層：黒褐色シルト（やや粘質）、５層：オリーブ褐色砂礫層である。このうち２層までは、かつて行われた圃場整備によって移動された土とみられ、２層の下に１層が逆転して薄く存在する地点も確認された。

２．遺構

遺構は、Ｔ３において直径 60 ㎝ほどのやや大型の穴を１基確認した。覆土に礫を含んでいて、時期は不明だが井戸であった可能性がある。

３．遺物

遺物は、中世土師器皿、珠洲焼鉢、近世磁器の破片が出土している。図示した遺物は、１はＴ３から出土、２はＴ４から出土した中世土師器皿である。いずれも 14 世紀後半頃のものとみられる。

４．まとめ

今回の調査地を含む金屋本遺跡周

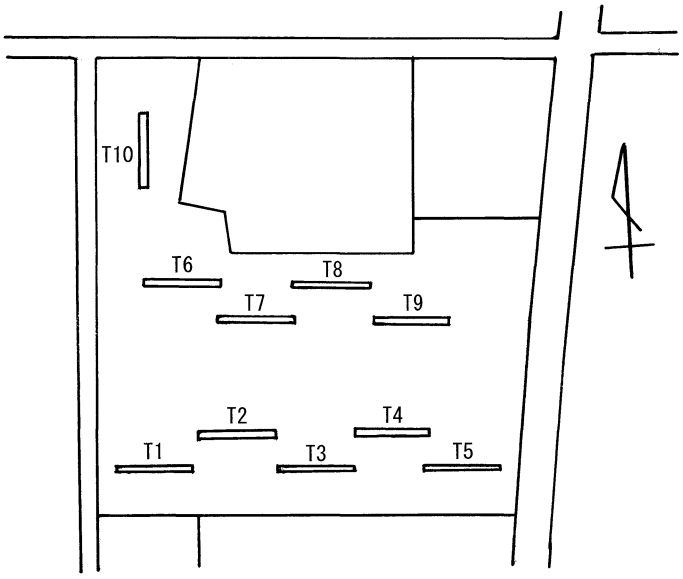
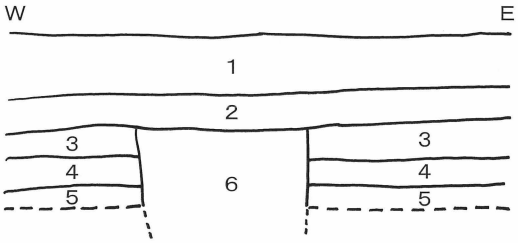


図２　トレンチ位置図（1：1,500）

辺一帯では、下層に砂礫層が厚く分布することから、水田等の農地を一時転用しての砂利採取の実施が恒常化している。この一帯は、昭和30年代から40年代にかけて実施された圃場整備によって大規模な削平や盛土が行われて平坦化されているが、平成22年度に実施した分布調査や平成23年度に実施した試掘調査、今年度実施した３件の試掘調査の結果などからは、場所によっては古代や中世の遺構・遺物がなお残存している部分があることが明らかとなってきており、今後の開発にあたっては注意が必要である。



Ｔ３（北壁、東から３ｍ）土色

1　2.5Y4/1 黄灰色シルト
2　2.5Y5/2 暗灰黄色シルト
3　2.5Y5/3 黄褐色シルト
4　10YR3/2 黒褐色シルト（やや粘質）
5　2.5Y4/4 オリーブ褐色砂礫
6　7.5Y3/2 オリーブ黒色シルトに炭粒少量混（穴覆土）

図３　基本層序および穴断面図（1：30）

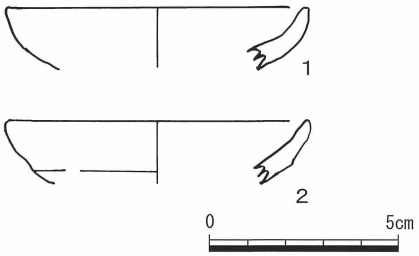
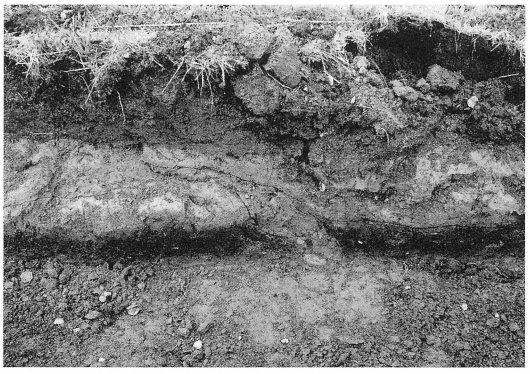


図４　出土遺物（1：2）

作業風景



Ｔ１　噴砂

Ｔ３　穴

金屋本江遺跡（2）

図５　調査位置図
（1：5,000）

１．調査の概要

今回の調査は土砂採取工事に先立つ、金屋本江遺跡の埋蔵文化財包蔵地試掘調査である。今回の調査対象面積は約 9,000 ㎡である。

本調査地は遺跡の中央よりやや西側に位置する。標高は 31～32m で若干、北方向に向かって低くなっている。

試掘調査は 10 月 15 日～29 日の実働 11 日間で実施した。仮設トイレの設置、トレンチ設定等の事前準備については数日を要している。

調査は幅約１m、長さ約 20m の試掘トレンチを 21 本設定し、バックフォーを用いて遺構および検出面を確認しながら慎重に掘削を実施した。調査面積は約 420 ㎡である。

各トレンチの土層の状況は、耕作土直下で確認面である灰白色シルト層の４層が確認できた部分が多く、間層として漸移的な２層、３層が見られる。２層は耕作土に影響された褐灰色粘質土層、３層は４層に影響された灰白色粘質土層である。４層の下は無遺物層で５層の灰色シルト、６層の暗灰色粘土、７層の黒褐色粘土が堆積している。基本的には水平堆積で形成されている。

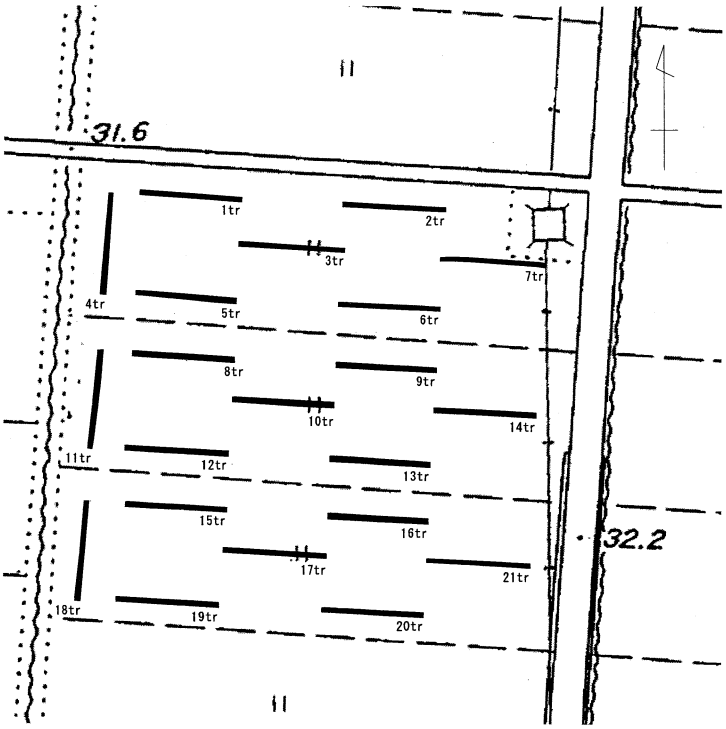


図６　トレンチ位置図（1：1,500）

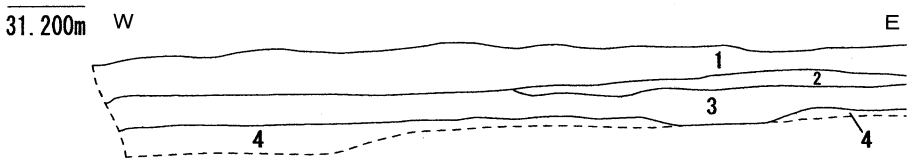


図７　基本層序（1：40）

1tr（北壁、西端部分）土色

1　耕作土

2　2.5Y6/1 褐灰色粘質土

3　10YR8/1 灰白色粘質土（4の土が混じる）

4　5Y8/1 灰白色シルト（1.2.3の土が混じる）

２．遺構

今回の調査では、各トレンチで時期不明の溝あるいは流路等を確認している。遺物は伴っていない。覆土は遺構面までの漸移的な２層、３層を主体とするものが多く、圃場整備以前の田の区画等、比較的新しいものと考えられる。また、いくつかのトレンチで噴砂跡を確認した。噴砂は遺構確認面と考えられる４層で確認されているため、比較的新しい地震の痕跡であると考えられ、飛越地震（1858年　安政５）で生じたものと推測される。

３．遺物

耕作土直下より、21点の遺物を得た。うち８点を実測し、図示した。遺物は中世のものが主体である。１は11トレンチより出土している。古墳時代前期の器台の受部である。２～４は中世土師器皿である。２は11トレンチより出土、底部付近にはユビオサエ痕が残る。３は14トレンチより出土、小法量のものである。時期は16世紀以降と考えられる。４は15トレンチより出土、体部下半にユビナデ痕が目立つ。時期は13～14世紀代と考えられる。５は11トレンチより出土した青磁碗である。ガラス質の淡緑色の釉薬が器面にかけられている。底部のみの残存で見込みに圏線を巡らせる。時期は13世紀と考えられる。６～８は珠洲である。６は18トレンチより出土した鉢の底部である。７は12トレンチより出土した甕の底部で、残存する体部にはタタキ目が残る。８は擂鉢である。口縁内面に波状文、体部には８条１単位の卸目が付される。時期は吉岡編年のⅣ期～Ⅴ期で14世紀から15世紀の範疇と考えられる。

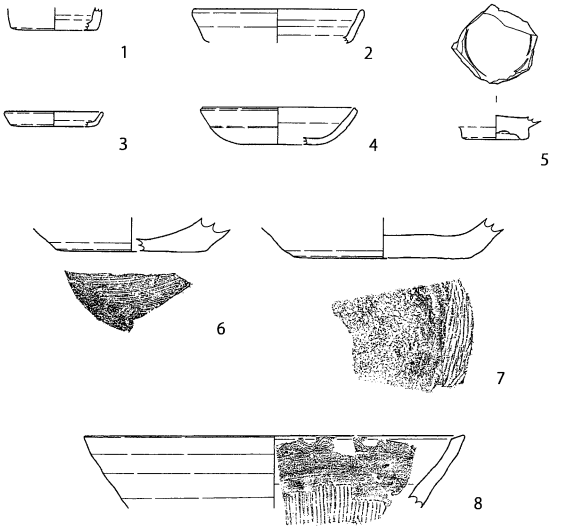


図８　出土遺物（1：6）

金屋本江遺跡（3）

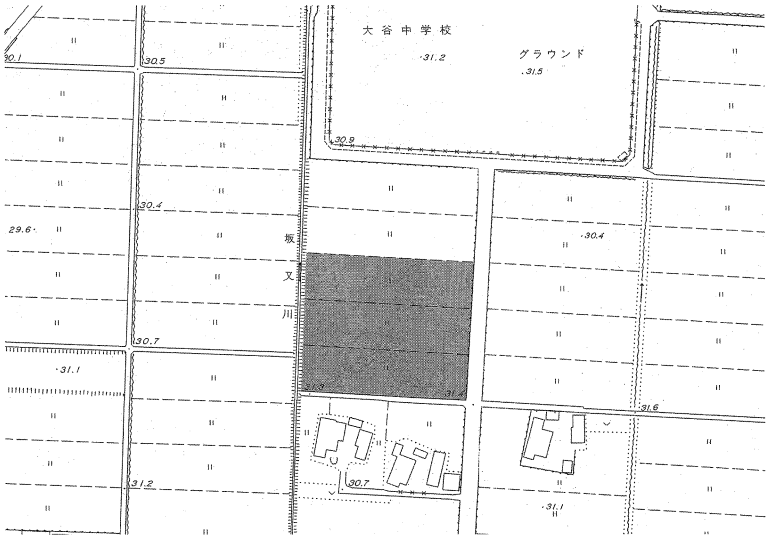


図９　調査位置図
（1：5,000）

１．調査の概要

今回の調査は土砂採取工事に伴う試掘調査であり、現地調査は10月15日から25日にかけて行なった。幅1.0ｍの試掘トレンチを南北方向３本、東西方向14本に設定し、重機により表土を掘削、人力によって平断面の精査を行なった。最大掘削深度は50㎝、掘削面積は合計330.75㎡である。

基本層序は下記のとおりである。Ⅳ層は遺物包含層の可能性も想定されたが、結果的に遺物は確認できなかった。色調の違いでⅣa層とⅣb層に細分した。Ⅴ層はＴ１・Ｔ７・Ｔ12で確認されたが、ほとんど層をなさず、樹枝状の薄いプランを示す。Ⅵ層上面が遺構検出面である。このほか一部のトレンチでⅨ層上部に噴砂の痕跡が確認された。

Ⅰ層：黒褐色土（水田耕土）
Ⅱ層：灰褐色土（水田床土）
Ⅲ層：黄褐色土
Ⅳa層：灰褐色土
Ⅳb層：暗灰色土
Ⅴ層：灰色土（炭化物含む）
Ⅵ層：黄褐色土
Ⅶ層：黄褐色シルト質土
Ⅷ層：暗灰色土（木質含む）
Ⅸ層：暗灰色粘土（炭化物含む）
Ⅹ層：灰色粘土

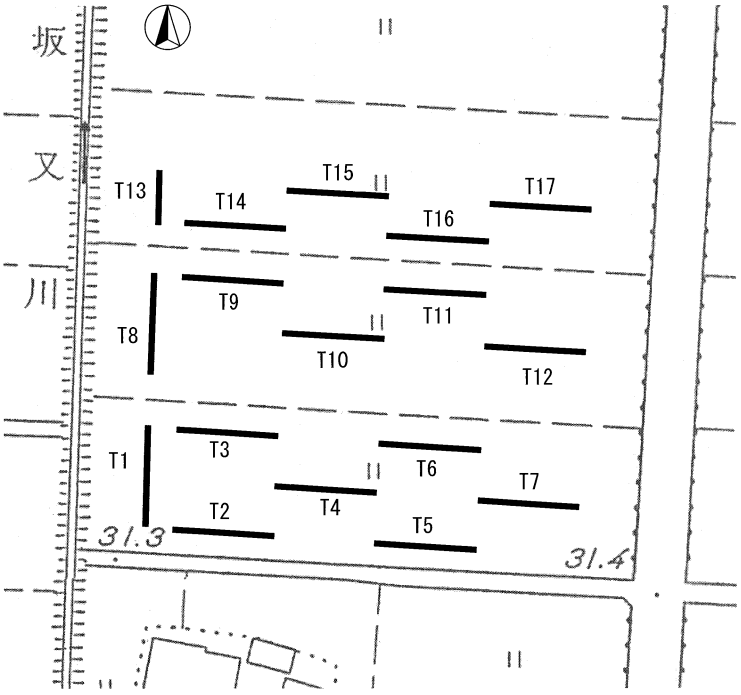
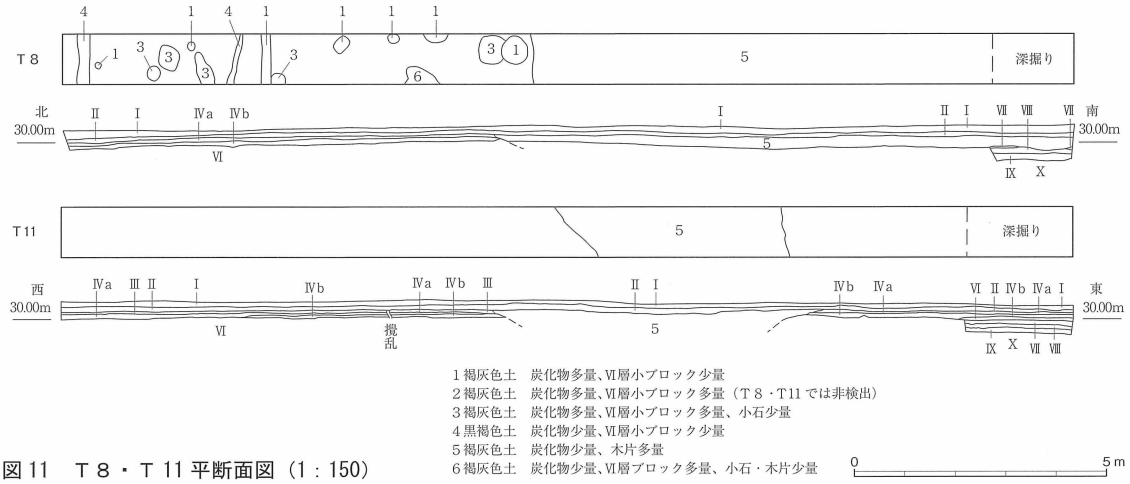


図10　トレンチ位置図（1：1,500）

２．遺構

各トレンチで溝状ないし土坑状のプランを検出したが、多くは昭和の土地改良時に埋められた溝や、樹木等を廃棄した土坑の痕跡である。とくにＴ７からＴ11に向かって幅４ｍほどの川跡が確認され、瓦や樹木の根株が埋められていた。これらの痕跡はⅢ層ないしⅣ層から掘り込まれたもので、木片を含む覆土（５・６層）で識別が可能である。これに対し、Ⅳ層の下から掘り込まれる遺構がＴ１・Ｔ２・Ｔ８・Ｔ９周辺で検出され、試掘対象地の南西部に分布している。とくにＴ８の北半部で多く検出された。これらの遺構は褐灰色土ないし黒褐色土を覆土とし、炭化物が混入する（１～４層）。しかし、いずれの遺構も昭和の土地改良以前であること以外に時期を特定できる根拠は乏しく、遺物を伴ったものは検出されていない。



１褐灰色土　炭化物多量、Ⅵ層小ブロック少量
２褐灰色土　炭化物多量、Ⅵ層小ブロック多量（Ｔ８・Ｔ11では非検出）
３褐灰色土　炭化物多量、Ⅵ層小ブロック多量、小石少量
４黒褐色土　炭化物少量、Ⅵ層小ブロック少量
５褐灰色土　炭化物少量、木片多量
６褐灰色土　炭化物少量、Ⅵ層ブロック多量、小石・木片少量

0　5ｍ

図11　Ｔ８・Ｔ11平断面図（1：150）

Ｔ８遺構検出状態（北から）

Ｔ３北壁土層断面（南から）

３．遺物

遺物は全て細片である。Ⅰ層では、Ｔ２・Ｔ９・Ｔ10・Ｔ15から土師器皿、Ｔ３から須恵器甕と越中瀬戸皿、Ｔ５・Ｔ11から珠洲甕が出土している。ほかにＴ14のⅣｂ層から土師器皿が出土している。１は古墳時代の須恵器甕の胴部片で、外面は格子タタキである。２はロクロ成形の土師器皿底部で、平安時代のものか。３・４は珠洲甕の頸部片・胴部片である。３はやや軟質で灰白色の色調である。５は越中瀬戸の皿底部で、付高台である。

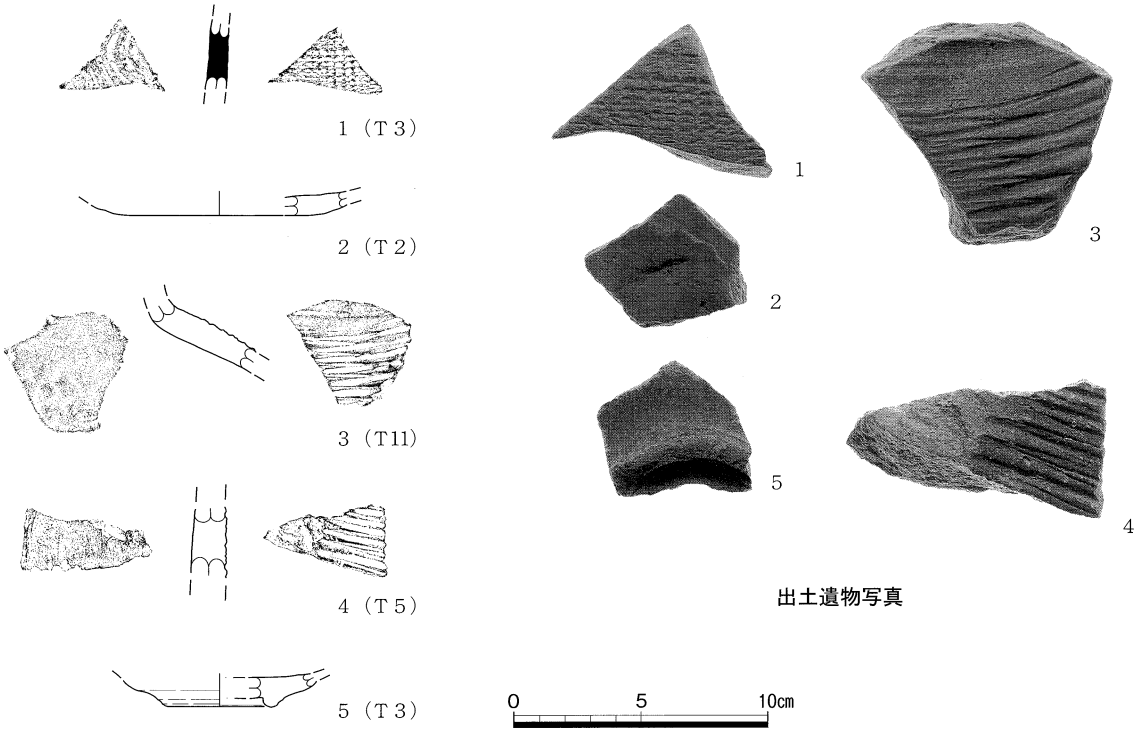


図12　出土遺物（1：3）

４．まとめ

今回の試掘調査では、対象地の南西側で溝状ないし土坑状の遺構が検出された。昭和の土地改良による削平を受けているが、南西側に高まりのある旧地形が想定される。地山のⅥ層は南西側で砂質化しており、この乾燥した部分で何らかの土地利用があったものと考えられる。一方、北東側のⅥ層は粘土質で遺構も検出されなかった。検出された土坑状の遺構には隅丸方形と円形のものとがあり、古代ないし中世の柱穴となる可能性がある。しかし、遺構の遺存状態は全般的に良好とはいえず、相当の削平が及んでいる。遺物の出土量も極めて少量であった。

試掘箇所は金屋本江遺跡の指定範囲の西端に位置している。試掘対象地の南西側に遺構が検出されたことは、遺跡範囲がさらに西側へ広がる可能性を示していると考えられる。

桜 町 遺 跡（1）・（2）

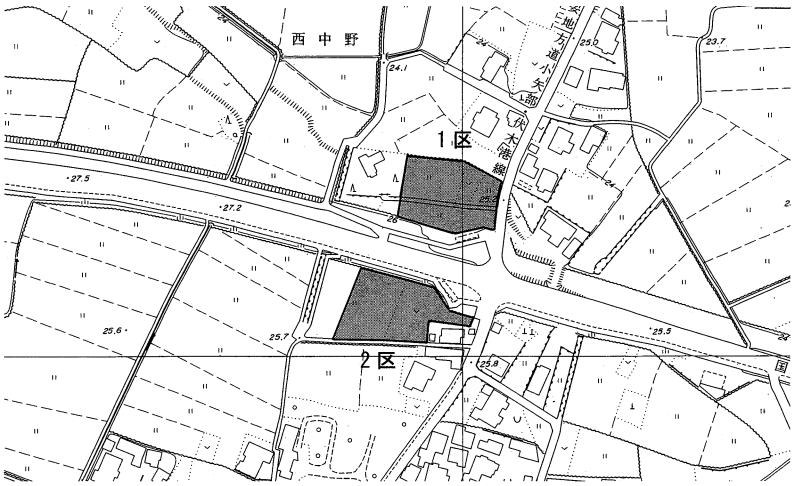


図 13　調査位置図
（1：5,000）

1．調査の概要

桜町遺跡は市街地の北方、小矢部川と子撫川の合流部付近に所在し、子撫川右岸の自然堤防上に立地する。今年度は、昭和 58 年に実施した国道８号小矢部バイパス建設に先立つ発掘調査地（現在の国道８号の西中野交差点西側路線内）を挟んだ南北２地点で調査を実施したが、それぞれ別の店舗建設に先立つ試掘調査である。ここでは、国道の北側の調査区を１区、南側の調査区を２区として報告する。

１）１区

現地調査は 2012 年（H24）年４月 25 日から５月３日の実働４日間で実施した。調査対象地内に１m×10m程の試掘トレンチを 15 本設定した。重機械により掘削し、平面及び断面を人力により精査した。最終的な掘削深度は最大で 100cm 前後となった。基本層位は１層：暗褐色シルト（耕作土）、２層：灰黄褐色砂（遺物包含層）、３層：灰褐色粘質土、４層：黒褐色粘質土、５層：灰色粘質シルトである。このうち、３層上面において遺構を検出した。

調査区内は南から北に向かって落ちる地形で、３段の田畑に分かれている。最高位にあたる２枚の水田では、設定した１Ｔから６Ｔまでのすべてのトレンチから須恵器や土師器、近世陶器などの遺物が出土した。また、

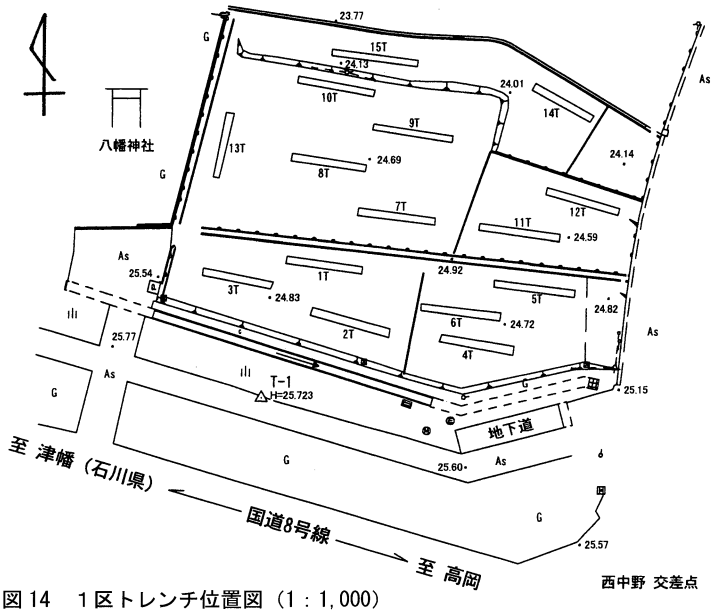
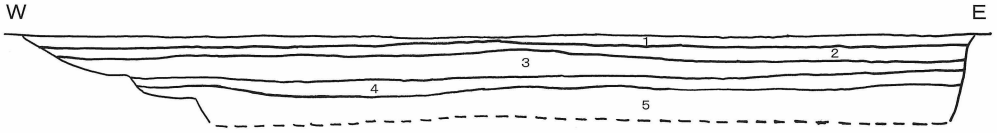


図 14　１区トレンチ位置図（1：1,000）

１Ｔ、５Ｔ、６Ｔでは、柱穴とみられる小さな穴や、やや大型の土坑の一部を検出した。中段にあたる２枚の田畑に設定したトレンチでは、７Ｔと13Ｔで土師器が出土した。また、９Ｔ、10Ｔ、13Ｔで溝や穴を検出した。下段に設定した14Ｔと15Ｔでは、須恵器、土師器、近世陶磁器などの遺物が出土した。また、14Ｔでは、近世の溝を検出した。

図示した遺物は４Ｔ出土の須恵器小壷と５Ｔ出土の須恵器杯である。いずれも８世紀（奈良時代）のものである。土師器は粘土層中で細片となったため図示できなかったが、古墳時代とみられるものも含んでいる。

図15　１Ｔ北壁土層図（1：80）



土色

1　10YR3/3 暗褐色シルト（耕作土）　3　7.5YR4/2 灰褐色粘質土（上面で遺構検出）　5　7.5Y5/1 灰色粘質シルト

2　2.5Y4/1 灰黄褐色砂（遺物包含層）　4　10YR2/3 黒褐色粘質土

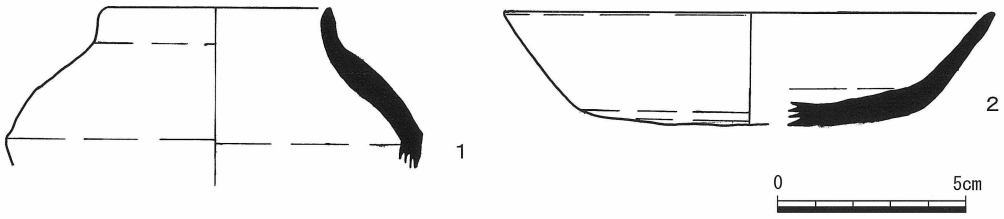
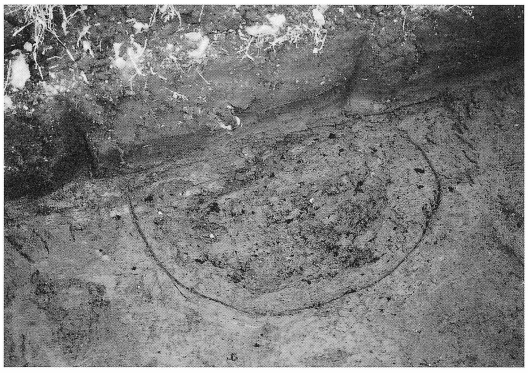
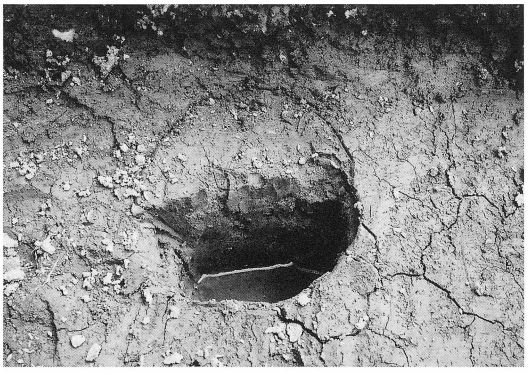


図16　出土遺物（1：2）



１Ｔ　穴



５Ｔ　穴

2）２区

現地調査は2012年（H24）年11月20日から11月22日の３日間で実施した。調査対象地内に、幅１mの試掘トレンチを3.5m～16mの長さで８本設定した。重機械により掘削し、平面及び断面を人力により精査した。最終的な掘削深度は最大で90cm前後となった。

基本層位は１層：盛土あるいは耕作土、２層：灰色シルト（遺物包含層）、３層：褐灰色シルト、４層：青灰色粘質シルトである。このうち、３層中あるいは４層上面で遺構を検出した。

遺物は、調査区東部のＴ１とＴ２において須恵器と土師器、北部のＴ３において土師器、Ｔ４において土師器・近世陶器（越中瀬戸）・砥石が出土した。遺構は、Ｔ１南側で大型の穴１基、Ｔ３で穴３基と溝１条、Ｔ４で穴２基、Ｔ５で穴３基と溝１条を検出した。

図示した遺物のうち１はＴ３出土の古墳時代の土師器の器台脚部である。２はＴ２出土の須恵器高台杯、３はＴ１出土の須恵器杯である。いずれも８世紀前半頃のものである。このほか、須恵器甕体部の破片や近世の陶磁器、土鈴の破片とみられるものなどが出土している。

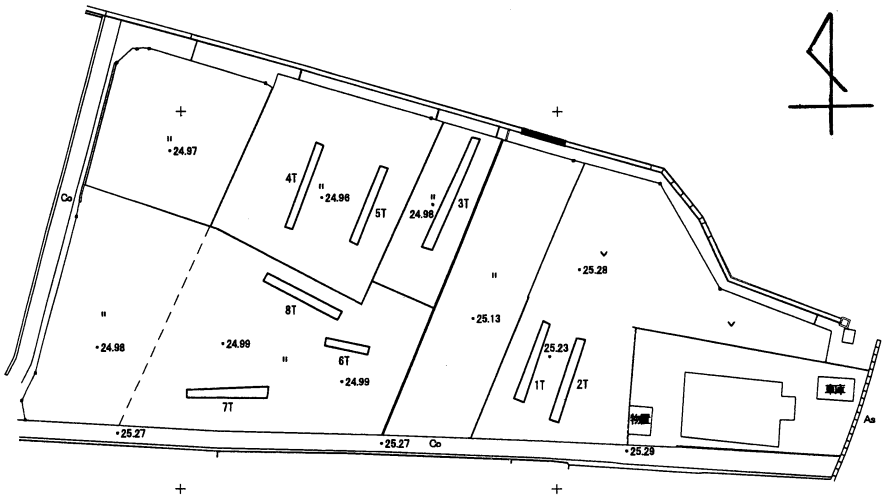
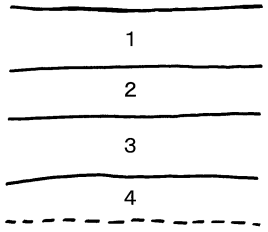


図17　２区トレンチ位置図（1：1,000）



５Ｔ（東壁、中央部分）土色

1　10YR3/3 暗褐色シルト（耕作土）

2　5Y5/1 灰色シルト

3　10YR4/1 褐灰色シルト

4　2.5Y4/1 黄灰色粘土

図18　基本土層図（1：80）

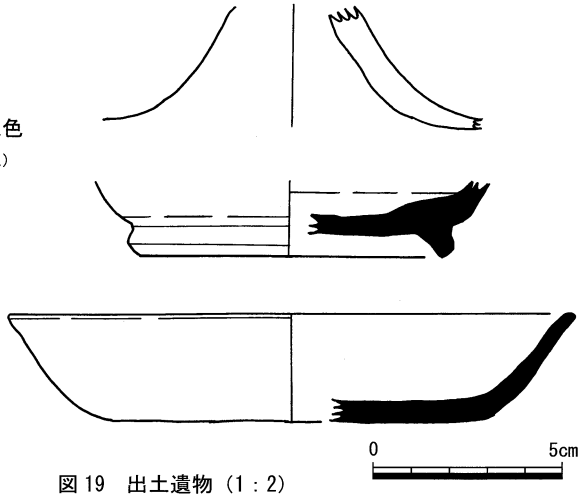


図19　出土遺物（1：2）

２．まとめ

今回の２箇所の調査地の間に位置する国道８号路線内では、昭和58年に本発掘調査を行っており、古墳時代～中世の遺物・遺構が濃密に確認されている。今回の結果により、その分布が路線外にも広がることが確認されたが、いずれも国道に近い部分にのみ遺構・遺物が集中し、南北に離れるにつれてその分布は希薄となる傾向がみられた。これは、この周辺では北側には子撫川が流れ、南側は後背湿地となるという制限された地形の中で自然堤防上に古代の集落の中心が営まれたことを示しているものと考えられる。

以上のような結果から、今回の２つの地区での店舗建設等の開発行為にあたっては、基礎等の掘削を伴う建物の位置をできるだけ国道から離し、国道に近い部分は盛土等により遺跡を保存した駐車場等とするよう要請した。

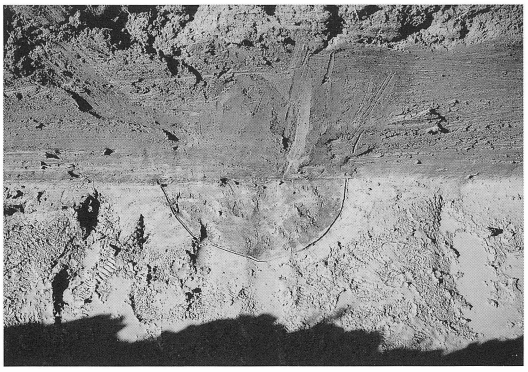
２区　遠景

１Ｔ　土坑

３Ｔ　柱穴

３Ｔ　溝

５Ｔ



５Ｔ　穴

日の宮・道林寺遺跡

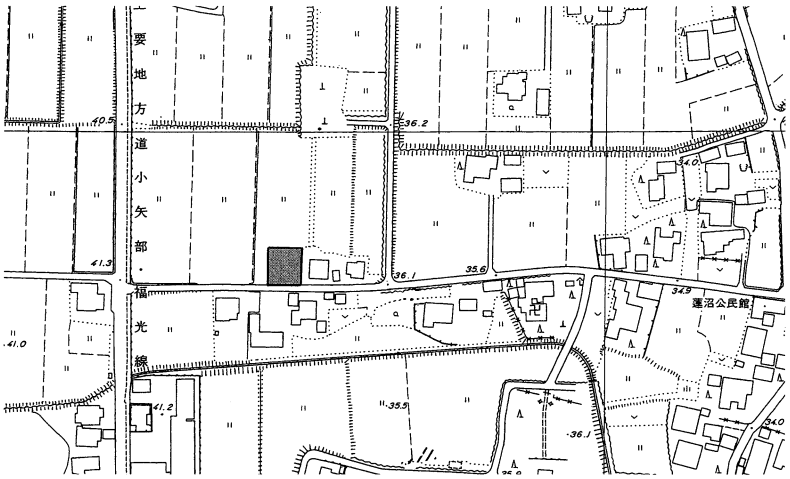


図 20　調査位置図
（1：5,000）

調査の概要

日の宮・道林寺遺跡は市街地の南西、渋江川左岸の段丘上に位置する。今回の調査は個人住宅の建設に先立つもので、遺跡範囲の中央北寄りに位置する。現状は水田である。

現地調査は 2012 年（H24）年９月５日に実施した。住宅が建つ予定の位置をできるだけ避けて、調査対象地内に１m×10mの試掘トレンチを２本設定した。重機械により掘削し、平面及び断面を人力により精査した。最終的な掘削深度は最大 90cm 前後となった。基本層位は１層：黒褐色シルト（耕作土）、２層：盛土（黒渇色シルトにオリーブ色砂質土がブロック状に混入）、３層：オリーブ色砂質土である。３層上面で精査をかけたが、遺構は検出できなかった。遺物は、２層から須恵器の小破片が１点出土している。

今回の調査地を含む周辺一帯は、昭和 50 年代の圃場整備によって大規模な削平や盛土が行われて平坦化されており、遺構面や旧地形が失われている可能性が高い。ただし、今回掘削した２本のトレンチではいずれも東端部に落ち込みが認められ、底部に葦の根を含む土壌の堆積が見られたことからは、現在は平坦に見えるこの場所に、規模や時期は不明ながらも流路または小さな谷状の地形があったことが辛うじて推察される。

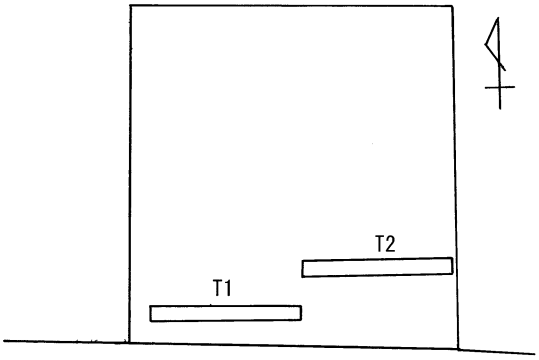


図 21　トレンチ位置図（1：500）

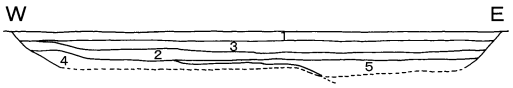


図 22　Ｔ２北壁土層図（1：160）

土色

1　10YR2/2 黒色シルト（耕作土）
2　1 層に 4 層がブロック状に 15%混入
3　4 層に 2 層がブロック状に 5%混入
4　5Y5/4 オリーブ色砂質土
5　7.5YR3/2 黒褐色シルト（葦の根多く含む）

蟹谷条里遺跡

図 23　調査位置図
（1：5,000）

調査の概要

蟹谷条里遺跡は市の南部に連なる蟹谷丘陵の北方に位置する。このあたりは圃場整備前までは中世の条里地割りが残る地域として知られ、平成４年度に蟹谷条里遺跡として周知化された。今回の調査は瓦粘土採取に先立つもので、調査区は遺跡範囲の中央に位置する。現状は水田である。本調査区の北に隣接する冷蔵倉庫の敷地では、平成 10 年度と 13 年度にそれぞれ試掘調査を実施し、柱穴等の遺構を確認している。

現地調査は 2012 年（H24）年 10 月 30 日から 31 日の２日間実施した。調査対象地に１ｍ×15ｍの試掘トレンチを８本設定した。重機械により掘削し、平面及び断面を人力により精査した。最終的な掘削深度は最大 50cm 程度となった。層位は１層：暗灰黄色シルト（耕作土）、２層：灰色シルト、３層：浅黄色粘土である。３層上面で精査を行ったが、遺構は検出されなかった。なお、Ｔ６の西端部にのみ２層と３層の間に縞状の堆積土をもつ落ち込みが確認され、流路のようなものが存在したことが推定されるが、時期や規模については不明である。遺物は、Ｔ１の２層中から珠洲焼の擂鉢の破片が１点出土した。

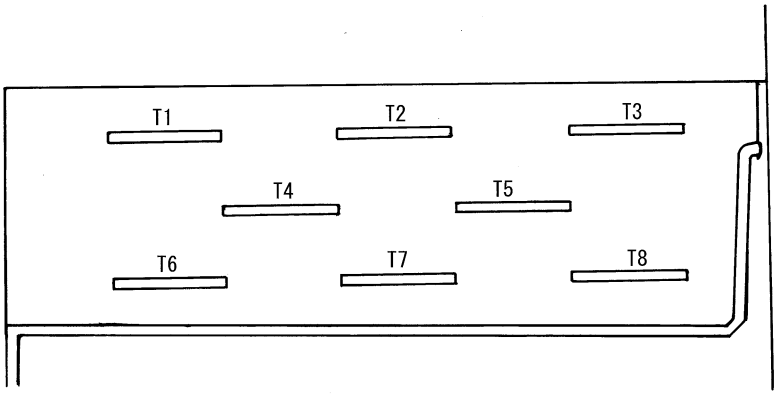


図 24　トレンチ位置図（1：1,000）

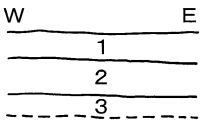


図 25　基本土層図（1：40）

Ｔ２（北壁、西端部分）土色

1　2.5Y42/2 暗灰黄色シルト（耕作土）

2　5Y4/1 灰色シルト

3　5Y7/4 浅黄色粘土

報告書抄録

ふりがな	へいせいにじゅうよねんどおやべしまいぞうぶんかざいはっくつちょうさがいほう
書名	平成24年度小矢部市埋蔵文化財発掘調査概報
シリーズ名・番号	小矢部市埋蔵文化財調査報告書第73冊
編著者名	大野淳也　藤田慎一　常深　尚
編集機関	小矢部市教育委員会
所在地	〒932-8611　富山県小矢部市本町1番1号
発行年月日	西暦2013年3月27日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯 °′″ 世界測地系	東経 °′″ 世界測地系	調査期間	調査対象 面積(㎡)	調査原因
かなやほんごういせき 金屋本江遺跡(1)	おやべし 小矢部市 かなやほんごう 金屋本江 273ほか	16209	163	36° 39′ 39″	136° 54′ 06″	20120410 ～ 20120419	6,008.43	土砂採取
かなやほんごういせき 金屋本江遺跡(2)	おやべし 小矢部市 かなやほんごう 金屋本江 578-1ほか	16209	163	36° 39′ 41″	136° 53′ 48″	20121015 ～ 20121029	8,911	土砂採取
かなやほんごういせき 金屋本江遺跡(3)	おやべし 小矢部市 かなやほんごう 金屋本江 638-1ほか	16209	163	36° 39′ 44″	136° 53′ 40″	20121015 ～ 20121025	8,604	土砂採取
さくらまちいせき 桜町遺跡(1)	おやべし 小矢部市 にしなかの 西中野 あざばんどう ほか 字坂東834-1外	16209	021	36° 41′ 19″	136° 52′ 41″	20120425 ～ 20120503	2,055	店舗建設
さくらまちいせき 桜町遺跡(2)	おやべし 小矢部市 にしなかの 西中野 あざばんどう ほか 字坂東611-1外	16209	021	36° 41′ 17″	136° 52′ 40″	20121120 ～ 20121122	2,485.9	店舗建設
ひみやどうりんじいせき 日の宮・道林寺遺跡	おやべし 小矢部市 はすぬま 蓮沼 297ばん番2	16209	057	36° 39′ 19″	136° 51′ 13″	20120905	499	個人住宅建設
かんだにじょうりいせき 蟹谷条里遺跡	おやべし 小矢部市 ひらざくら 平桜 6151ばん番	16209	187	36° 38′ 05″	136° 50′ 48″	20121030 ～ 20121031	2,826	土砂採取

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
金屋本江遺跡(1)	散布地	中世	穴	珠洲、中世土師器、近世磁器	
金屋本江遺跡(2)	散布地	中世	溝	土師器、須恵器、珠洲、中世土師器、青磁	
金屋本江遺跡(3)	散布地	中世	土坑、溝	土師器、須恵器、珠洲、近世陶器	
桜町遺跡(1)	集落	古代	穴、土坑、溝	土師器、須恵器、近世陶器	
桜町遺跡(2)	集落	古代	穴、土坑、溝	土師器、須恵器、近世陶器	
日の宮・道林寺遺跡	散布地	古代？	自然流路	須恵器	
蟹谷条里遺	条里	中世	なし	珠洲	

小矢部市埋蔵文化財調査報告書第73冊

富山県小矢部市

平成24年度　小矢部市埋蔵文化財発掘調査概報

発　行　日　　平成25年3月27日

編集・発行　　小矢部市教育委員会

〒932-8611　富山県小矢部市本町１－１

ＴＥＬ　0766-67-1760

印　　刷　　ア　ヤ　ト